

2020年度第5回経営協議会議事要旨

- 日 時 2021年1月25日（月） 15:00～16:45
- 場 所 Zoomによるオンライン会議
- 出席者 田中 雄二郎学長、
氏家 純一委員（学外委員）、遠藤 信博委員（学外委員）、
河村 潤子委員（学外委員）、福田 誠委員（学外委員）、
佛淵 孝夫委員（学外委員）、宮崎 隆委員（学外委員）、
山口 武兼委員（学外委員）、山口 寿一委員（学外委員）、
渡邊 守委員（改革・連携担当理事）、
若林 則幸委員（教育・国際交流担当理事）、
大川 淳委員（医療・情報担当理事）、
木村 彰方委員（研究・評価担当理事）、
今村 聡子委員（事務総括・男女共同参画担当副学長、事務局長）
- 陪席者 瀬下 明学長特別顧問
鐘江 康一郎理事（IT化・業務改善担当）、
藤谷 茂樹監事、岸上 恵子監事、廣川 和憲オープンイノベーション
機構総括クリエイティブマネージャー、永田 昭浩総務部長、
米澤 聡司財務部長、柴田 大施設部長、
横山 直樹統合教育機構事務部長、
秋葉 泰樹医学部附属病院事務部長、
今泉 静雄歯学部附属病院事務部長、
高見澤 昭彦財務部次長、白谷 正洋戦略企画課長、
池田 裕一病院企画課長、荒川 徹統合研究機構事務長

○ 確認事項

1 2020年度第4回経営協議会議事要旨（案）について

田中学長から、2020年度第4回経営協議会議事要旨（案）について、資料

1に基づき確認を行い、原案どおり承認された。

○ 審議事項

1 ガバナンスコードにかかる適合状況に関する報告書（案）について

今村事務局長から、ガバナンスコードにかかる適合状況に関する報告書について、資料2-1から資料2-3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

2 第3期中期計画の変更（案）について

木村理事から、第3期中期計画の変更について、資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

○ 報告事項

1 附属病院に係る新型コロナウイルス対応状況及び運営方針について

大川理事から、附属病院に係る新型コロナウイルス対応状況及び運営方針について、資料4に基づき説明があった。

また、山口武兼委員から、公社病院は重症病床がほとんどなく、本学の重症病床を頼りにしていることから、今の段階では通常診療と新型コロナウイルスの重症患者対応をできるだけ並立していただきたいとの発言があった。この発言を受けて、田中学長から、都立病院や公社病院では1病院で100人以上の受入を行っている病院もあると聞いているが、このような病院では通常診療はどうされているのかとの質問があった。山口武兼委員から、そのような病院では通常診療をかなり抑えて受け入れざるを得ない状況である旨の説明があった。

瀬下学長特別顧問から、入院及び手術件数が減少している要因について質問があった。この質問を受けて、大川理事より、新型コロナウイルス患者のための緊急手術室を確保していることや、手術室の看護師をコロナ外来に派遣していること、待機できる手術が増えている一方で、がん患者等の検診の率や内視鏡検査が減ること等によるウェイティングリストの減少が要因となっている旨の説明があった。この説明を受けて、瀬下顧問から、この傾向がしばらく続くこととなるか質問があった。この質問を

受けて、大川理事から、新型コロナウイルス患者が減少して東京都からの要請数が減れば改善する旨の説明があった。

佛淵委員から、新型コロナウイルス重症患者をこれだけ多く受け入れていけば稼働率が下がるのは致し方ないため、新型コロナウイルス患者数が減少するのを待つしかない旨の発言があった。

2 今後の稼働見込み及び財務見通し等について

米澤財務部長から、今後の稼働見込み及び財務見通し等について、資料5に基づき説明があった。

遠藤委員から、国からの補助金は今後も継続的に続くと考えて良いかとの質問があった。この質問を受けて、大川理事から、来年度もこれだけの補助が続くとは思えないため、新型コロナウイルス患者を診るための医療スタッフを早期に補充することで通常の病院運営に戻したいと考えている旨の説明があった。また、米澤財務部長から、国の予算では第3次補正予算が成立しており、その中で新型コロナウイルス関係として1.6兆円程度計上されている旨の補足説明があった。

氏家委員から、結果として今年度は国や東京都から100億円をいただくことができたが、どういう方策が資金獲得に有効であり、かつ来年度も使えると考えているか質問があった。この質問を受けて、田中学長から、あらゆる手立てを講じた結果であるが、積極的に外部から視察を受け入れ、データを提示して働きかけを行ったことが一つの要因である旨の説明があった。

さらに氏家委員から、新型コロナウイルスが来年度も続くことを想定して、ケースシナリオについて事前に検討してはどうかとの提案があった。

山口寿一委員から、本学のように使命感に基づいて重症患者を受け入れている病院に対して、国からの補助が全く無くなることはないと思われるとともに、各病院で新型コロナウイルス患者の受入状況に差があることから、本学だけが過大に負担を背負うことがないように協力してい

きたい旨の発言があった。

福田委員から、今年度は様々な補助金が出てきたが、いずれも試行錯誤的に計上されたものであり、来年度も必ず付く保証はないが、持続性のあるものについては法令を根拠に来年度も計上され、関係者の一致したところで予算を獲得するといった整理が行われるのではないかという旨の発言があった。

3 緊急事態宣言を受けた本学の対応について

木村理事、若林理事、今村事務局長から、緊急事態宣言を受けた本学の対応について、資料6-1及び資料6-2に基づき説明があった。

また、河村委員から、学生の通信環境等の不具合により参加が難しくなった際のバックアップ体制について質問があった。この質問を受けて、若林理事から、学内でも少人数であれば通信環境が整っていない学生が受講できるよう整備していることや、多くの授業は収録した映像がWeb Classに掲載されている旨の説明があった。この説明を受けて、河村委員から、Web Classの閲覧可能な期間について質問があった。この質問を受けて、若林理事から、基本的に視聴可能な期間は区切っていない旨の説明があった。

宮崎委員から、試験の実施状況について質問があった。この質問を受けて、若林理事から、学生の配置を変えるなどの感染対策を行った上で試験を実施している旨の回答があった。

遠藤委員から、オンラインは様々な可能性があるが、議論をする場合にはチームの信頼関係が出来上がっていなければ議論が進まないこともあるため、オンライン化を促進するにあたり意識した方が良い旨の意見があった。

4 令和元年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

木村理事から、令和元年度に係る業務の実績に関する評価の結果について、資料7-1及び資料7-2並びに参考資料1から参考資料3に基づき説明

があった。

また、佛淵委員から、運営費交付金を国から受け取っている以上、それに応えられる実績を出して評価を受ける必要があることや、医療系の大学では病院が主体となる傾向にあるが、大学の評価の際には教育と研究が指標となるため、臨床だけではなくこれらについても成果を出していく必要がある旨の意見があった。

5 2020年度資金運用状況について

高見澤財務部次長から、2020年度資金運用状況について、資料8に基づき説明があった。

6 新型コロナウイルス感染症対策基金について

今村事務局長から、新型コロナウイルス感染症対策基金について、資料9に基づき説明があった。

また、氏家委員から、ネットワークやメディアの活用といった様々な方法で資金の積み上げが必要である旨の発言があった。この発言を受けて、田中学長から、新型コロナウイルス対応でメディアに取り上げられる機会が増えたこともあって患者等から寄附をいただいたことから、この寄附金を使用して変化があったことを社会に示し、次の寄附に繋げていきたい旨の説明があった。

7 2021年度経営協議会開催スケジュールと主な議題について

今村事務局長から、2021年度経営協議会開催スケジュールと主な議題について、資料10に基づき説明があった。

(以上)